

巻頭言

井下 佳弘

アンテナが街を変える

本年 2011 年 7 月 24 日の地上アナログ放送終了が迫る中、地上デジタル放送のシンボリックな東京スカイツリーの完成が目前である。2 月 18 日現在 584m と完成予定高さ 634m までわずかである。

東部伊勢崎線業平橋が家から近いこともあり何度か足を運んで、日々変化していく姿を驚き見つめている。アナログ放送の象徴でもある高さ 332.6m の東京タワーは東京の中心地である芝公園に 1958 年に完成した。当時はタワー最上部に使う良質の鉄材が無く朝鮮戦争で活躍した戦車の鋼材を利用し、また鉄骨構造にはリベット 168000 本、ボルト 45000 本が使用されたと報告されている。一方最新技術の粋による東京スカイツリーは、完全なシームレス鋼管による溶接構造である。その形は DNA の立体構造に似た螺旋構造である。江戸時代の街並みや伝統を



色濃く受け継ぐ超アナログ的な下町である両国・浅草界隈に超近代建造物の出現は今や町も人の生活までも大きく変えようとしている。インターネットや第 4 世代携帯電話に代表される IT 技術は、地球そのものをコンピュータ即ち LSI を核とする一つの生命体に変化させつつある。LSI 技術の急速な進化をもたらしたのはナノ技術である、ナノ技術の進化は今後人体の中までバイオセンサーとして活用され人そのものが ICT ネットワークの一部あるいは頭脳として大きな役目を果たす日が来そうな気がする。Mwe シニア会の面々が取り組んでこられた様々な技術が今大きく融合しスカイツリーに代表されるアナログからデジタル社会へと新たなパラダイムシフトが築かれようとしています。